

# 『「こだわり」をもって臨んだホームルーム活動』

東京都立工芸校高等学校 定時制課程

教諭 中村 里津也

## 1. はじめに（自己紹介）

大学卒業後、荒川区の区立中学校の特別支援学級で特別支援教育支援員を2年間、その後、同じ荒川区や足立区立の中学校で時間講師、産休・育休代替教員、期限付任用教員として5年間勤務した後、平成29年度から正規教員として東京都立千歳丘高等学校で4年間勤務した。担当した授業は年度によって多少異なるが、1年の地理、2年の世界史、3年の日本史と、まんべんなく各学年に関わることができた。そして今年度、初異動を経験し、現在は東京都立工芸高等学校の定時制課程に籍を置いている。

この度の実践報告においては、『「こだわり」をもって臨んだホームルーム活動』と題して、東京都立千歳丘高校でその年ごとに「こだわり」をもってホームルーム（以降HR）で取り組んだことをお話する。

## 2. 東京都立千歳丘高等学校と在籍生徒の様子

東京都立千歳丘高等学校（以降千歳丘高校）は今年で創立79年を迎えた、各学年7クラス規模の全日制普通科の都立高校である。平成29年より新校舎への改築・改修工事が行われ、令和元年に新校舎、令和2年にグラウンドが完成した。私が担当した学年は1年から3年の2学期の途中まで、プレハブの準備校舎で過ごし、卒業までの残り数か月を新校舎で過ごすことができた。

私は1年目から3年目までをHR担任、4年目は生活指導部に所属し、生徒と関わってきた。生徒たちは素直で人懐っこいが、時として強い指導をする必要もあった。しかし、対話を重ねることで関係を築くことができた。ここでは特に当時の生徒の課題に関する部分を、私の主観ではあるが、以下にまとめる。

### （1）学習面での課題

- ・学習習慣が確立していない
- ・授業に対する関心・意欲が低い
- ・提出物の遅滞
- ・授業についていけない

### （2）生活面での課題

- ・自己肯定感が低い生徒が多い
- ・生活習慣の乱れや、意欲の低下から遅刻・欠席が多い
- ・部活動の加入率が低い
- ・特別指導を要するトラブルなどが多く発生  
※近年はソーシャルネットワーキングサービスの利用を巡るトラブル
- ・メンタルヘルス（心の健康）の不調

### （3）進路面での課題

- ・進路活動に対する意識の低さ

・「やりたいこと」ではなく「できること」で選択する傾向

生徒からよく耳にした言葉は「どうせガオカ（生徒・地域における千歳丘の略称）だから」だった。不本意入学の生徒も多く、現実を受け入れ切れていない生徒や、中学校時代に何かしらの挫折を経験し、そこから抜け出せない生徒、何かに主体的に取り組んだ経験をしてこなかった生徒が少なくないことが見受けられた。また、発達やメンタルヘルスに課題を抱えた生徒も一定数在籍し、学習や出席に影響を与えていた。赴任当時、先輩教員から「3年間通して各学年1クラス相当の人数が進路変更をする」という言葉を聞いて、それまで中学校でしか勤務経験のない私は衝撃を受けたことを覚えている。これらのことを踏まえ、学年主任の提案による「You can do it!」というスローガンのもと、7人の担任団（うち5名がH29年度に異動してきた）と約280名の生徒との3年間の学校生活が始まった。

### 3. 1年目の「こだわり」 生徒と会話し、生徒理解に努める

最初の1年目は1学年の担任からスタートした。高校生の担任は初めてで、特に生徒との距離感をつかむこと、どこまで声や手をかけ、支援をしていくかについて最初は戸惑った。しかし、中学校で勤務していた時の経験を生かすことを優先し、積極的に生徒と会話する時間をもって生徒理解に努めること、生徒が相談し、自分の考えを伝えやすい環境にしたいという思いから以下に取り組んだ。

- ・休み時間や放課後に積極的に教室へ行き会話をする。
  - ・担当HRの生徒が所属する部活動を見に行く、試合の応援に行く。
  - ・考査ごとに振り返りを記入させ、面談で成果や課題を踏まえ、目標を決めさせる。
  - ・学級だよりを発行する。日ごろの教室の様子や主な予定や連絡を伝えるとともに、係・委員会・部活動で活躍している生徒の紹介、行事の感想を紹介した。
- ※生徒同士の意見を交換させる活動などは主に教科の授業の中で行った。

先述した通り、学習や生活面において課題を抱える生徒も在籍していたため、こまめに会話をして状況の把握につとめ、励ましたり褒めたりすることを意識した。またそこから必要に応じて面談を行ったり、学年の別の先生などに指導の協力を求めたりすることもあった。

中学校時代に主体的に何かに取り組んだり、部活動に参加したりした経験が乏しい生徒がいる集団でもあったため、積極的に学級だよりを作成し、連絡事項だけでなく、面談時に寄せられたHRに対する意見（資料1）や日頃の教室の様子、部活動・委員会・係に取り組んでいる生徒の紹介をし、評価した。面談時に出た生徒の声を共有したことで、HR委員と美化委員が皆の声を受けて、教室の美化を進めるため、ポスターの制作（資料2）を行うなどの姿がみられた。

#### 資料1 「学級だより（6月）面談で出た皆の意見紹介」より

##### 「人間関係について」

- ・基本仲がいい
- ・仲が良く盛り上がるが、調子に乗ってしまう×
- ・色々な人がいるが、皆共存できている。
- ・男女ともに一応グループには分かれている。
- ・いじりは相手の気持ちも考えた方がいいかもしれない。

##### 「教室整備について」

- ・ゴミの分別をしない
- ・ゴミを床に捨てる人がいる
- ・飲み物をこぼして拭かない。
- ・掃除当番でもサボろうとしたり、手を抜こうとしたりする人がいる。
- ・汚した人じゃない人が掃除することもある
- ・ゴミが落ちていても気にしない人が多い



##### 「勉強についての不安」

- ・勉強の仕方がわからない
- ・家庭学習ができない（やらない）
- ・苦手な教科の点数がヤバイ
- ・中間は何とかなったが、期末は不安
- ・授業によっては落ち着きのない授業もある。



資料2 「HR 委員と美化委員が作成したポスター」



#### 4. 2年目 文化祭での「こだわり」

前年、1年生の文化祭では、HRで目標や役割分担を生徒の中で決め、9月の文化祭に向けて夏休み前から準備が開始されても、ほとんどが少数のHR委員や文化祭委員を中心に進められ、夏休み中の準備にかけつける生徒はごく少数だった。当然9月に入り焦った文化祭委員と、他の生徒との間でトラブルが発生した。また、直前になって仕上げるという一夜漬けのような状態や、準備はしないが当日は楽しむ、といった生徒が散見された。この前年度の経験から、文化祭などの行事を生徒中心に企画する力や、知識が不足していて、何をどうしていいかそもそもわからない、ということが問題としてあると感じ、クラス替えした2年生の文化祭では担任主導で以下2点に取り組むことにした。

##### (1) どんな文化祭にしたいかで「こだわる」

「皆で協力して取り組む」など、ぼんやりしたものではなく「文化祭で何に拘るか」を決めさせた。担当のHRでは、すでに生徒が「駄菓子カフェ」という出し物に決めていたため、「内装や外装にこだわり、雰囲気を出す」といった内容で話が進んだ。

##### (2) 役割分担の仕方と仕事内容を提案する



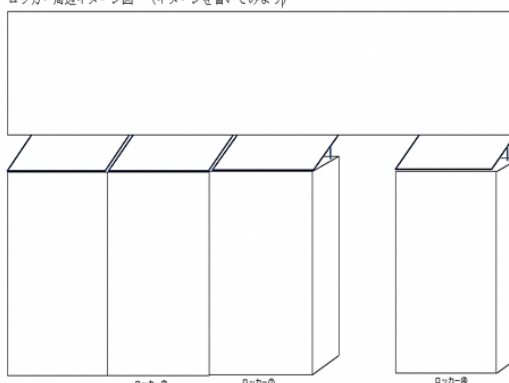
前年の反省を生かし、事前に文化祭担当の生徒たちと役割分担について話し合い、以下の表の通りまとめた。夏休み前に内装や外装のイメージ、作るものを提案し、分担を決めると同時に、デザインを考えるためのプリントなどを配り、夏休みの課題とした。

役割分担表

役割	仕事内容
全体指揮 HR 委員 文化祭委員	役割分担や仕事内容の検討提案、予定・進行管理 予算・物品購入
内装担当①	天井・壁面のデザイン
内装担当②	黒板のデザイン
内装担当③	テーブル小物作成（和風うちわ・コースター）
内装担当④	テーブルクロス作成（藍染体験）
外装担当①	入口・出口の作成（DIY）
外装担当②	ロッカーの装飾
パソコン担当	各担当からの要望に合わせて、写真や絵を作成・検索・印刷

資料3 内装担当に提案した内容

資料4 外装担当に配布したプリント例

<p><b>内装担当③</b></p> <p>班 うちわ コースター作り</p> <p>メンバー ( )</p> <p>うちわキット×10 色和紙36枚×3</p> <p>①骨材に和紙を貼る ②和紙をちぎり好きな柄柄を貼る</p>  <p>木材切れ端×∞</p> <p>①木材に好きな柄を貼る ②工芸室で糸のこで切り出す。 ③ヤスリをかけて仕上げ</p> 	<p><b>内装担当④</b></p> <p>班 藍染体験</p> <p>メンバー ( )</p> <p>・布20枚 藍染用染料 藍汁ばー (藍葉巻・ビニール手袋・ビニール袋)</p> <p>①布を洗って乾かす ②洗った後は、「絞り」の準備をします。綿30cmで布を縛っていきます。縛り方や大きさは自由で構いません。今回は太めに綿30cmを掛けました。また、しぼり紐の色は自由に選べます。ちなみに、「グラデーション」の場合は、そのまま染めます。</p> <p>【絞り】</p> <p>①絞りをを行う際は、そのまゝバケツの中に入れて、20～30分浸しておきます。</p> <p>【グラデーション】</p> <p>①藍汁を5分干す ②絞りにしたい際は、まずタオルの4分の1を染液に浸します。 ③絞りは全体の2分の1、3回目は4分の3と濃く行って色が濃く増やしていきます。</p> <p>④染色液から取り出したものを数回水洗いしたら、お洗濯中性洗剤をぬるま湯に入れタオルを洗っていきます。色落ちを防ぐために、最後に色止めにつけて乾燥を行います。後は干すだけ。</p>	<p><b>外装担当②</b></p> <p>ロッカー周辺イメージ画 (イメージを書いてみよう)</p>  <p>ロッカー① ② ③ ④</p>
--	--	--

(3) 文化祭準備の様子と生徒の反応

<p>内装担当③テーブル小物作成</p> 	<p>内装担当④テーブルクロス (藍染)</p> 	<p>外装担当②ロッカーアート</p> 
<p>内装担当①②</p> 	<p>パソコン担当</p> 	<p>全体指揮生徒 (左) 教室の様子 (右)</p> 

会計管理や物品購入、作成物の大まかな内容、作成方法などは担任の指導が入った結果となり、生徒が一から企画・運営するという点まではできなかったが、「内装・外装にこだわる」という点に関してはそれぞれの担当ごとに一人ひとりが参加して取り組むことができた。他 HR の生徒が様子を見に来たり、手伝いに来たりした際に褒められ、自慢げに作っている物の紹介をする姿が印象的だった。また、担当していた作業の内容以外についても興味をもって手伝う姿がみられたことや、当初予定していたものとは別に、外装担当の生徒が作成した木製のベンチに合うように「入口にバス停を作りたい」と積極的に「こだわる」姿もみることができた。なにより一番印象に残っていることは、文化祭後の生徒アンケートで多くの生徒が「来年からは内装や外観の質に関する賞も作って欲しい」という意見を書いたことである。2 学年は物品販売だったので売り上げの多いクラスに票が集まり、入賞を逃してしまったことに対してかなり悔しさを感じたようである。

## 5. 3年目 「こだわり」の広がりを感じた文化祭

3学年における文化祭の参加形態は例年有志参加であったが、学年の先生方の協力のもと、全HRでの参加にこぎつけることができた。担当学年は1学年の時に遠足でカレー作り、2学年の修学旅行は台湾へ、3学年の遠足ではうどん作りを経験していたため、その集大成として「世界の食～world kitchen～」を学年のテーマに調理や物品販売で文化祭に参加した。

私は学年の文化祭担当であったことや、ちょうど夏前からの進路活動が本格化したため、担当HRの指導については2学年の時ほど参加することができなかった。しかし、前年から持ち上がっていた生徒を中心に準備や作業がすすみ、各自で役割分担をして取り組む姿がみられ、成長を感じた。また、意外にも他のHRでは、昨年私のHRの内装を真似する様子がみられたり、何か作成をする時に作り方や材料などを積極的に聞きに来たりすることが多かった。前年「こだわり」を経験した生徒が新たなHRで活躍し、それを目にして影響された生徒がいたのであれば嬉しく思う。

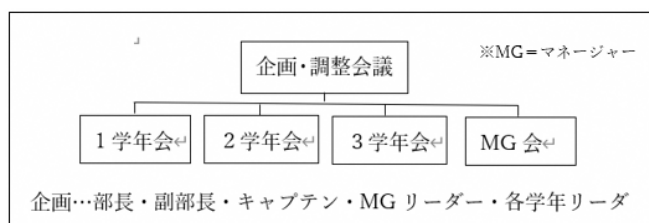
今年度、千歳丘高校の文化祭では、3学年のロッカーの装飾が非常に凝ったものであったとの話を聞いている。この学年は昨年文化祭が中止となってしまった学年である。1学年の時に、私たちの学年の文化祭の様子を見たことも装飾の質に多少影響しているのでは、との意見をもられたことは幸いである。

## 6. 部活動指導の「こだわり」

### (1) サッカー部の危機

3年目から、この年に異動されてきた先輩教員と一緒にサッカー部の顧問となった。(翌年からは顧問4人体制)翌年からは校庭の改修工事が始まり、学校で満身に練習ができないことや近くに練習ができる場所がないことから、遠くまで引率する必要があること、少ない練習の中でモチベーションを維持できるような集団をつくる必要があった。サッカー部に所属する生徒の大半がどちらかというとサッカーは大好きだが、勉強は不得手、部活を辞めると生活習慣などにも不安が出てくる生徒が多いという危機感もあった。

私も先輩もサッカーが専門ではなかったが、部活動はもう一つのHRであると考えていたので、「信頼され、応援されるチーム」を目指して生徒と話し合いを行い、練習内容に関することは生徒、その他の組織づくりや環境整備は顧問と役割分担をした。具体的には、これまで練習や参加状況をめぐりトラブルが多かったとのことで、前向きに話し合いをできるように以下の図のように環境を整備した。また、自分たちが計画する練習内容の指針となるように、文化祭の時に目標決めて「こだわり」を意識させたことと同様に、「自分のチームの強みにしたいこと」「部活を通してどのように成長したいか」を話し合わせた。さらにその目標をもとにどのような練習を行うか、についてもワークシートや話し合いの場を用意し、活動内容の決め方などを指導した。



※顧問になる前、HRの生徒でサッカー部に所属する生徒から、「ミーティングをしても毎回各々が文句を言い合って何も決まらない。」との相談を受けていた。



個人作業（チームの強みを考える）	班作業（目標に向けて必要なこと）	話し合いの様子
		

当初はミーティングにて私が授業をするような形で話し合いを行わせたが、勝手にわかってくると部長や副部長から「話し合いに必要な項目（目標やそれに即した個人の考えなど）のワークシートを作って欲しい」と、具体的な要望があり、それをもとに自分たちで話し合いを行えるようになった。しかし、生徒たちだけで練習内容を決めなければならないことは限界があった。昨年度は専門的な技術指導ができる方、また、ケガが多いという課題に対応するため、トレーニング専門の外部指導員をそれぞれ呼びし、生徒の練習に幅をもたせることができたよう依頼をした。1年間校庭が使えない生活は生徒に大きな負担とストレスをかけることになったが、昨年度は部員も30人を超えるほどまでに増え、一人も退部することなく顧問をした2年間が終わったことは幸いだった。今年度から校庭が使えるようになり学校で伸び伸び活動できる姿をみられないことは残念だったが、今年度の入学式の際に、サッカー部が会場準備に名乗りを上げたという話を聞き、技術の向上だけではない成長を感じた。

## 7. 「こだわる」ことにこだわった4年間の課題

初任校の千歳丘高校では、1年目～3年目をHR担任、4年目を生活指導部として生徒と関わってきたが、4年間を通して特に、生徒と積極的に関わって生徒理解に努めること、行事や部活動などに本気で取組み、やりがいあるものとするための方法を伝えることにこだわった4年間だった。生徒の変容についてはこれまでにご紹介したが、最後に課題として感じていることをまとめる。

積極的に生徒理解に努め、人間関係の調整や悩みの相談、生活指導に尽力することができたが、一方で生徒の学習面について、振り返りや反省をもとに目標を立てさせてもその後の方法や、学習習慣の確立をサポートすることには及ばなかった。特に、1学年時に「全員進級」を目標に放課後の補習などの個別指導にも取り組んだが、進級後、勉強についていけなくなる生徒が転学する様子を見て、力不足を実感した。また、目立つ生徒の対応に終始しがちであったことで、普段目立たない生徒や、最初から前向きであった生徒に対する支援が不十分であったと感じる。

「3 1年目のこだわり」の内容で、生徒が教室の整備に乗り出す場面があったが、教室の美化・整備が追い付かないことが多々あった。教室の美化・整備については当然先輩方からも指導をいただいていたが、初任者研修で出張があったり、部活で遅くなったりで教室の清掃や整備をこまめに指導することが疎かになってしまった。他のHRと比べると、落ち着きがないと言われていた原因の一旦はこれにあると考える。

最後に、これまで4年間様々な「こだわり」をもって取り組んだが、それらを行うことができたのも、ひとえに所属していた学年の先生方をはじめ、勤務校の管理職、先生方からの理解や協力があったおかげであるとを感じる。来年度以降、HRを担当する際は、もちろん「こだわり」をもちつつ、自分の取組みを学校経営計画や学年の経営計画と照らし合わせ、位置づけを明らかにしながら、実践していきたい。